

# 光熱費を節約するエネファーム

能登半島大地震の後も各地で大きい地震が続いている。地震に限らず、大雨、台風などいつどこで災害にあってもおかしくない状況だ。災害に見舞われた時に一番困るのが停電。一時的でも生活にかかわるし、長期にわたると生死にかかわるくらい厄介なもの。最近では、太陽光発電など、自家発電の装置を持つ家が増えてきたが、ガスで自家発電できる「エネファーム」が注目を浴びており、昨年十一月には累計出荷台数も五十万台を超えたという。停電の時に役に立つばかりでなく、光熱費の削減ができるのが魅力なのだという。



エネファーム 左：パナソニック(株)、中央：(株)アイシン、右：京セラ(株) 資源エネルギー庁「あらためて知る「燃料電池」～私にもできるカーボンニュートラルへの貢献」より

「エネファーム」と聞いてすぐにピンと来る人は、まだ少ないのではないだろうか。「エネファーム」は、都市ガスやLPガスから取り出した水素と空気中の酸素を化学反応させて、電気をつくり出し、この時発生する排熱でお湯を沸かし、給湯などに利用する家庭用燃料電池。排熱をすぐに利用でき、送電などのロスがないためにエネルギーを有効活用、省エネにも大きく貢献するのだという。

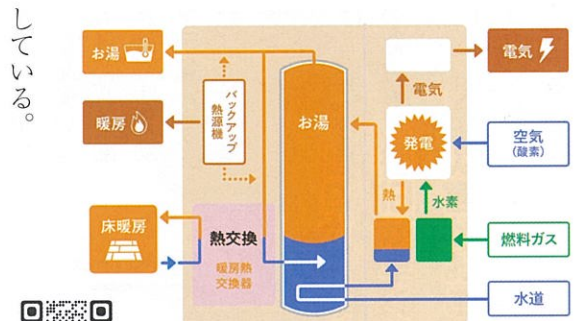
二〇〇九年から発売されていたのだが、当時三百万円という価格からなかなか普及しなかった。しかし、近年は価格も百万円ほどになり、さらに国の補助金も受けられるようになって普及が加速

している。

「エネファーム」に対する国の給湯省エネ事業の補助金は、一台につき十八万円、「ネットワークに接続可能な機種で、気象情報と連動することで、停電が予想される場合に、稼働を停止しない機能を有するものであること」の条件を満たすと、二万円加算される。

「エネファーム」で作った電気は、照明やテレビなどに使用できるのでその分を節電できる。排熱で沸かしたお湯は、キッチンやお風呂などの給湯に利用できる。

導入した利用者の声では、ガス代と電気代を合わせると今までよ



エネファームのしくみ 省エネルギー庁資料  
◀エネファームといっしょ (動画)

りも光熱費がかなり安くなるのが最大の魅力だという。

また、それまでは、ランニングコストが高くてあきらめていた床暖房や浴室暖房などが、エネファームで光熱費が安くなるために導入できることを喜ぶ人も多い。

最近では、地震や大雨、大雪、台風などの災害で停電することも珍しくないために、いざという時に備えたいという人もいた。

これまでの災害を見てもライフラインの普及は電気よりガスが早く、中でもプロパンガスは、災害に強いといわれている。

自宅にガスで発電できる機器が備わっていることは、家電製品の稼働だけでなく、情報を得るためのスマホ・パソコンの充電のためにも重要なことだろう。

また、エネファームを使って生活するだけで一年間のCO<sub>2</sub>削減効果は約一・四ト〜一・五トともいわれており、市民としてカーボンニュートラル、地球環境保護にも貢献できるという。光熱費節約で家計にやさしく、地球にもやさしい「エネファーム」についてもっと知ってほしいものだ。